

# 新発田市内商工会・聖籠町商工会地区景況調査報告書

構成商工会：豊浦商工会・聖籠町商工会

紫雲寺商工会・加治川商工会（担当）

## 1. 調査要領

### (1) 調査対象

ア 対象地区 新発田市内商工会・聖籠町商工会地区内小規模事業者  
イ 調査企業数 75 事業所（うち小規模事業者数 75 事業所）  
ウ 回答企業数 75 事業所（うち小規模事業者数 75 事業所）  
（回答率 100.0%）

### (2) 調査対象期間

令和5年1月～令和5年6月  
（調査時点 令和5年9月1日）

### (3) 調査方法

経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

### (4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	9	12.0%	9	12.0%
建設業	32	42.7%	32	42.7%
卸・小売業	10	13.3%	10	13.3%
サービス業	24	32.0%	24	32.0%
合計	75	100.0%	75	100.0%

## 2. 地域内産業全体の景況概要

5月に新型コロナウイルス感染症は5類となり経済活動の制限は概ねなくなった。この度の調査結果から域内小規模事業者の景況感は、昨年度（令和4年度）の同時期の調査結果と比較すると「好転」と回答する事業者が僅かではあるが増加した。域内小規模事業者の経営状況も少しずつではあるが明るい兆しが伺える。ただ、国際情勢による仕入単価の急激な上昇等、経営の不安要素が解決してはいないことから回復が継続するかは断定できない状況である。

### 【後継者の状況】

後継者なしと回答した経営者が半数を超えている。後継者不在の経営は将来廃業に繋がることであり第三者承継やM&A等を通じた支援を通じて企業の存続を図ることが重要となる。

後継者 あり	34事業所	45.3%
後継者 なし	41事業所	54.7%

### 【売上高】

前年同期比・前期比・今後の見通しとも昨年度比で「増加」と回答した事業所が増えている。また、「悪化」と回答した事業所は減少している。仕入及び経費の上昇を、売価に転嫁できつつあるとも判断できるので景況感にも明るさを取り戻しつつある。

#### 前年同期比

増加	不変	減少
26	29	20

#### 前期比

増加	不変	減少
23	28	24

#### 今後の見通し

増加	不変	減少
25	36	14

### 【採算】

前年度調査結果と比較すると前年同期比では「好転」が若干増え、前期比ではほぼ「不変」、今後の見通しでは「好転」が倍増している。また、「悪化」は減少している。採算面でも好感のもてる状況となっており安心感がひろがりつつある。

#### 前年同期比

好転	不変	悪化
15	37	23

#### 前期比

好転	不変	悪化
14	35	26

#### 今後の見通し

好転	不変	悪化
16	43	16

### 【仕入単価】

昨年度（令和4年度）の同調査でも仕入単価が「上昇」との回答が非常に多かった。今年度調査結果でも前年同期比、前期比でさらに増加した。ただ、今後の見通しでは「上昇」と回答した事業所が若干減少した。仕入単価の上昇も今後は「落ち着くのでは」と感じているのではと思われる。

#### 前年同期比

上昇	不変	低下
63	12	0

#### 前期比

上昇	不変	低下
58	15	2

#### 今後の見通し

上昇	不変	低下
53	20	2

### 【販売（客）単価】

昨年度（令和4年度）の同調査との比較で、前年同期比・前期比・今後の見通しともに「上昇」と回答した事業所が増加した。仕入原価の上昇を売価に乗せられるかの課題が競争力の弱い小規模事業者の最大の懸念であるが、売価に転嫁できている事業所が若干であるが増加したことは好材料である。

#### 前年同期比

上昇	不変	低下
32	40	3

#### 前期比

上昇	不変	低下
31	41	3

#### 今後の見通し

上昇	不変	低下
30	40	5

### 【資金繰り】

昨年度（令和4年度）の同調査結果と比較すると前年同期比・前期比・今後の見通しともに「好転」が僅かではあるが増加している。「不変」と回答した事業者もいずれも若干増加。「悪化」との回答は全てにおいて減少している。資金繰りについても若干であるものの好転の兆しがあると判断できる。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
7	52	16	5	53	17	5	57	13

### 【雇用動向】

昨年度（令和4年度）の同調査結果と比較して前年同期比・前期比・今後の見通しともに「増加」と回答した事業者が若干であるが増加した。また、「減少」と回答した経営者は減少した。景気の明るい見通しから雇用を増やす動きが出ているのではないかと判断できる。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
6	63	6	5	64	6	7	62	6

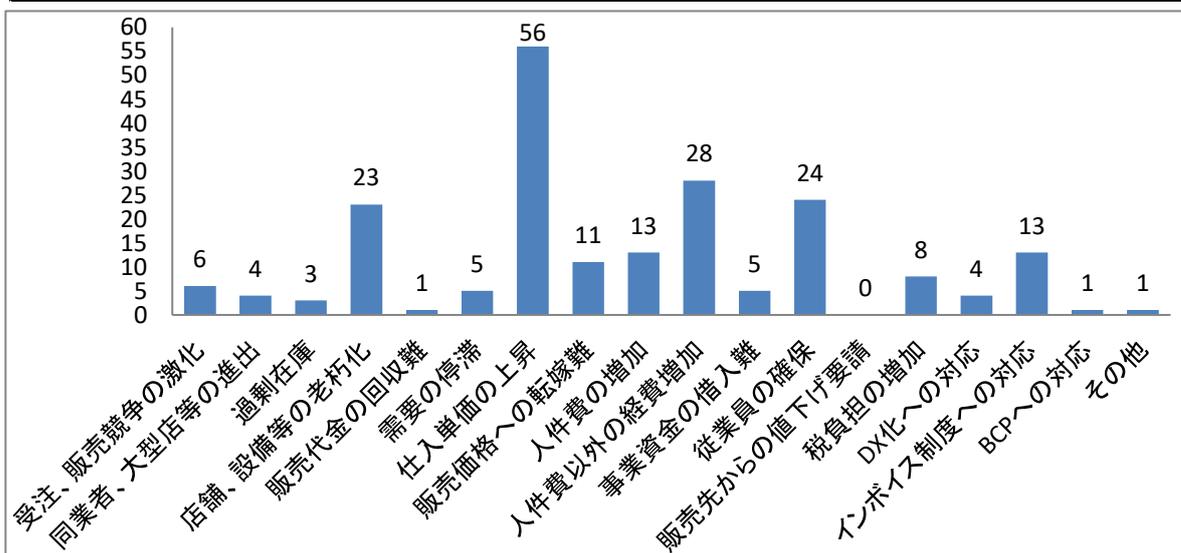
### 【景況判断】

昨年度（令和4年度）の同調査結果と比較して、前年同期比・前期比・今後の見通しともに、「好転」と回答した事業者が増えている。「悪化」と回答した事業者は減少しており、事業者の中に今後の景況に明るい見通しを感じている人が増えてきている。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
17	42	16	18	38	19	14	43	18

### 【経営上の問題点】

ゆるやかとは言え、昨年度調査結果との比較で経営全般の業績結果の良化傾向と今後の明るい見通しを感じている経営者が増加した点は好ましい。しかし、一方で仕入単価、光熱費等経費の上昇がどこまで続くのかまた雇用の確保困難な状況が解決するのか等不安定要素も多いのが経営上の喫緊の課題である。



### 3. 産業別景況概要

#### (1) 製造業

製造業の被調査事業所は9社。経営上の問題では「仕入単価の上昇」と「人件費以外の経費の増加」が2大課題として回答している。次いで、販売価格への転嫁、従業員の確保の順である。景気判断では前年同期比・前期比で「好転」と回答しているが、今後の見通しでは「好転」の回答が減少している。製造業では製造原価の上昇が不安材料と感じている経営者が多いと思われる。

#### (2) 建設業

建設業の被調査対象事業所は32社。経営の問題では、「仕入単価の上昇」「従業員の確保」「経費の増加」「税負担の増加」「受注、販売競争の激化」という順で回答数が多かった。中でも、仕入単価と人材の確保、経費の増加を問題としている経営者が多い。その次に続く「税負担の増加」と回答した経営者が多かったのは、10月からスタートする「インボイス制度の登録」を意識していると思われる。一人親方等の建設事業者がこの制度の登録で消費税の課税事業者となっているケースが多い現実から判断できる。景気判断については、「不変」との回答が最も多く今後の見通しについてもあまり変わらないと判断している。

#### (3) 卸・小売業

卸・小売業は、被調査対象者が10社。経営の問題では、「仕入単価の上昇」「店舗、設備等の老朽化」「インボイス制度への対応」「経費の増加」「需要の停滞」の順で回答が多かった。仕入単価の上昇は、全業種共通で最も回答数が多かったが、店舗、設備等の老朽化と回答した経営者が多かったことは、店舗、設備等のリニューアルを意識していることがわかる。また、次いでインボイス制度への対応と回答数が多かったがこれは、建設業で回答が多かった税負担という問題より、事務負担の問題を懸念していると考えられる。

#### (4) サービス業

サービス業他は、被調査対象者が24社。経営の問題では、「仕入単価の上昇」と回答した事業所が最も多く次いで「店舗、設備等の老朽化」と回答した経営者が多い。原材料の仕入れ単価の上昇は特に飲食業等にとっては最も重要な課題である。ただ、経費（特に光熱費等）の増加との回答が予想以上に低かったのは、電気、ガス等の対応ができたということか。また、景況判断では、前年同期比・前期比・今後の見通しともに「好転」と回答した経営者が「悪化」との回答を大きく上回っているのが特徴的であった。コロナ禍での「底から脱出」しているとの見通しを感じている事業所が増えてきたと思われる。

